

横浜市音楽研究会 研究部 器楽 部会記録					
日時	平成29年7月5日(水)				
部会名	研究部 器楽部会			主任	梅田 佳美
参加数	15名	司会	梅田 佳美	記録	齋藤 桂
研究 内 容	<p>研究部テーマ 子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方</p> <p>器楽部会テーマ 「子どもが楽曲の特徴や面白さに気付き、その楽曲への思いを大切に、豊かな表現をめざす器楽活動」</p> <p>研究仮説 「楽曲の特徴や面白さに気付き、指導法を工夫することで探究的、協働的な活動が生まれ、豊かな表現をめざす器楽活動になる」</p> <p>◎リコーダー研修「基本の奏法からアンサンブルまで」～リコーダーの楽しみ方～ 講師 リコーダー奏者 岩田 泰 先生</p>				
	<p>1. 音のイメージをつかむ 講師演奏「イギリスのナイチンゲール」〈独奏〉 ヤン・ヤコブ・ファン・エイク作曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生の演奏は直接体に響く感じがあるので、子どもにはできるだけ生の音を聴かせ、具体的な音のイメージを共有することが大切である。 ・気持ちをこめて演奏するとはどういうことなのか。リコーダーという音のイメージを、子どもがどのようにつかんでいるのかを理解することが必要である。 ・子どもがリコーダーを手にした時、どうするか。いろんな音を出させ、教師がその音を聞き取り、褒める。音に対して「なんてお話したの？人間の言葉で言っごらん」と子どもに返し、音の出し方の幅を広げていくことができる。 ・子どもが自分で表現を工夫するために、どんな音を出したのか、具体的に問うこと。子どもと気持ちを共有することで、リコーダーの表現が変わってくる。 <p>2. リコーダーの音楽的表現～4つのポイント</p> <p>①息づかい…音づくりのベースとなるもの。腹式呼吸、息のスピード、音の張り、音のゆらぎ、強弱など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座り方や姿勢なども整える。そのまま立ち上げられるような足の支えがあるとよい。 ・長い音を支えるのは、腹式呼吸である。腹式呼吸による支えを意識させる。 <p>②指づかい…なめらかに、確実に。サミング、素早い動き（アレグロ、トリル、装飾など）音程の修正（替え指など）</p> <p>③舌づかい…表現の決め手となる。メロディーをいかにしゃべるか。タンギングは音域によって使い分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音域の変化 ta to te ti chi（低⇔高） <p>④心づかい…自己表出とコミュニケーション。ここが最も大切な要素となる。誰に伝えるか。合わせるためには、音を聴く力を育てる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音が合わさった時、自分の音は聴こえなくなる。目標となる音を聴き、心の中で歌いながら、楽器で奏する。また、演奏の始め方と終わり方を丁寧に指導する。 <p>3. 「春の花」を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際のアンサンブルから、メロディーの効果的な表現方法や、ハーモニーの作り方、表現を広げ深めることについて、音を出しながら体験することができた。 ・低音（木琴）を入れて演奏することで、表現が広がる。 ・シブは、おさえる指より、あける指を意識させると、音が安定する。 ・子どもが日常使う言葉で、タンギングを示すと「テ」となる。低い音は「タ」 ・ソプラノ、アルト、テナー、バスのアンサンブルを通して、アンサンブルの作り方を体験した。 ・合奏の喜びとは、みんなで一つの音楽を創り出すことである。そのために、自分主体的に音を出し、自分の音は自分で考えて表現することが必要である。 <p>4. リコーダーの可能性 講師演奏「Music for a Bird」 Hans-Martin Linde作曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代曲の演奏から、リコーダーの表現が広がり、多様な音の出し方や演奏方法について、知ることができた。 				

